

ひとはひとの間に生まれ、ひとに育てられ、そしてひとの世話をしながら生を営む生き物です。
ひとの生老病死の営みは、家族という場と密接に関係し、生きる喜び、そして苦しみと共にあります。
本講座では、様々なすがたの家族をみつめ、ひとが「つながりあう」営みを見つめてみたいと思います。

■講演スケジュール

日時	テーマ	講師	内容
10月 6日(水) 18:30~20:30	赤い「ち」と白い「ち」 — 古代の親子	立正大学文学部教授 みうら すけゆき 三浦 佑之	古代の日本列島において、親と子はどのようにあったのか。性を等しくする親子（父と息と性を異にした親子（父と娘、母と息子）とでは、その関係にどのような違いが見いだせるのか。『万葉集』を通して、親子のつながりについて考えてみたい。
13日(水) 18:30~20:30	私らしく生きることを求めて — 岡本かの子「老妓抄」「家産」のなかの家族とジェンダー	立正大学文学部専任講師 うぶたたとこ 生方 智子	歌人で小説家であり、また、画家岡本太郎の母としても知られる岡本かの子は、明治二十二年に没した五一年間の生涯を通して、当時の女性としては全く新しい自由奔放な女性人物である。「老妓抄」と「家産」という二つの作品を読み解きながら、家族関係や老いのしく生きることについて考えていきたい。
20日(水) 18:30~20:30	積みすぎた方舟「現代家族」のゆくえ — 家族幻想・自立神話を越えて	立正大学文学部教授 かない よしこ 金井 淑子	家族という親密圏が制疎圏と化す急うさ、親密性の感情が暴力に反転する筋さど関り合ひ。今の家族の周辺で生起する事件から映し出されたことだ。愛情というマジックワードに幻滅に起こっていることのリアルに深くまなざし、そこから積みすぎた方向「現代家族」を越えたい。家族に最後に残るもの/残すものはなにか、家族と親密圏の《間》への問いとして。
23日(土) 12:30~14:30	機械と共に生きる！ — つながる家族と多くの仲間	湘南工科大学非常勤助手 ALS患者 みんご やすひこ 松後 晴彦	まず第一章は「自己紹介と自まみれのカニニューレ（喉の穴に入れる器具）、二章は「命を人工呼吸器と喉の吸引器」、三章は「ギターにのめり込んだ不良少年（高校時代）」、四章は「イルダが「海の見え工科大学との福祉制作り」（機械と共に生きる！— つながる家族と多）である。ご期待を！？」
30日(土) 12:30~14:30	人は人の中で人になる — 重い障害のある人たちと歩いて	社会福祉法人 十愛療育会 理事長 ひらら みちえ 日浦 美智江	37年前に出会った重症心身障害児と呼ばれる人たちとその家族、みんなと共に過ごしてきた多くの人生の物語に出会ってきた。人の中心は情緒にあるということ、心と心のかよひたいせがめであるということを知づけてもらった人たちのことをお伝えできたらと思う。

■講演会場：立正大学 大崎校舎 11号館5階 1151教室

■募集要項：

対象：16歳以上の方
定員：300名(抽選)
受講料：無 料
募集期間：平成22年9月1日(水)~9月17日(金)必着

申込方法：往復はがきに講座名「立正大学文学部公開講座」と明記し、住所・氏名(フリガナ)・年齢・連絡先電話番号を書いて下記申込先へお送り下さい。

申込先：品川区文化スポーツ振興課 生涯学習係宛
〒140-8715 品川区広町2-1-36

※ご提供頂きます個人情報は本講座のみに使用いたします。

問い合わせ先：品川区文化スポーツ振興課 03-5742-6837(直通)
立正大学文学部事務局 03-3492-8791

立正大学文学部公開講座

品川区共